

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/11/01

## 欧州債務問題再燃の兆し

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	↓	債務危機克服に不透明感残る 予想レンジ: 101.00 ~ 112.00円	2 - 3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	↓	第1週が最大のヤマ場に 予想レンジ: 1.3350 ~ 1.4200 ドル	4 - 5
<a href="#">ポンド/円</a>	→	ユーロ/円に連れる展開 予想レンジ: 117.00 ~ 130.50 円	6 - 7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	↓	テクニカル的にも転換点に 予想レンジ: 1.5350 ~ 1.6400 ドル	8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	102.94円	111.56円	100.74円	108.23円



①	3日、ギリシャが2011年と12年の財政赤字削減目標を達成できないと発表した事を受けて、ユーロ圏財務相会合でギリシャ向け次回融資の決定が先送りされた。これを嫌気してユーロ/円は101.00円まで下落。翌4日の取引開始直後には、100.74円まで下落して2001年6月以来の安値を記録した。
②	6日、独8月製造業受注が前月比-1.4%と予想(±0.0%)を大きく下回った事を嫌気してユーロが下落。さらにその後、欧州中銀(ECB)が政策金利を1.50%に据え置く事を発表すると、景気支援のための利下げを期待していた欧州株が急速に上げ幅を縮めたため、ユーロ/円は101.64円まで下落した。しかし、トリシェECB総裁の会見でカバードボンドの購入再開や12カ月物や13カ月物資金供給オペの導入といった金融機関支援策を発表した事を好感してユーロ/円は103円台まで反発した。
③	10日、9日に行われた独仏首脳会談で債務危機の解決に向けた新たな対策を10月末までに打ち出す方針を示した事を受けてユーロが上昇。さらに一部報道で欧州連合(EU)、国際通貨基金(IMF)、ECBのトロイカ調査団によるギリシャの緊縮財政に関する協議が終了し、11日にも声明を発表すると伝わるとユーロ買いが加速した。欧米株や原油価格が大幅上昇となった事もあって、ユーロ/円は104.97円まで上値を伸ばした。
④	17日、前週末のG20財務相・中銀総裁会議で、23日のEU首脳会議までに銀行の資本増強策など債務危機対応の包括的な計画を打ち出すよう要請する声明を採択。欧州債務問題の早期解決期待からユーロ/円は107.67円まで上昇した。しかしその後、ショイブレ独財務相が「次回のEU首脳会議では債務危機の最終的な解決策は示されないだろう」と発言したほか、メルケル独首相報道官が「月曜日に債務危機が解決するとの夢は実現しないだろう」と発言した事を受けてユーロが反落。さらに、これらの発言を嫌気してNYダウ平均株価が大幅に下落すると、ユーロ/円は105.36円まで下落した。
⑤	27日、東京時間午前中に終了したユーロ圏首脳会議(23日に追加して26日にも開催)で欧州債務危機の「包括戦略」が合意された事を好感してユーロは堅調に推移した。独DAX指数が5%超、NYダウ平均株価が3%近く上昇し、原油価格も4%超上昇するなど、株高・資源高が進んだ事もあってユーロ/円は108.12円まで上値を伸ばした。
⑥	31日、オープン前のオセアニア市場でドル/円が戦後最安値を更新して下落した事を受けて、本邦政府・日銀がドル買い・円売り介入を実施すると、ドル/円が4円近く急騰。つれてユーロ/円も111.54円まで大幅に上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/JPY

## 今月のポイント

10月のユーロ/円相場は100.74円～111.56円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.8%の上昇（ユーロ高・円安）となった。欧州債務問題の深刻化とドル/円の史上最安値圏での推移を背景にユーロ/円は一時約10年4ヶ月ぶりの安値となる100.74円まで下落した。しかし、9日の独仏首脳会談、14-15日のG20財務相・中銀総裁会合、21日のユーロ圏財務相会合、23日と26日のユーロ圏首脳会議などを経て、ユーロ圏債務問題の解決に向けた「包括戦力」が合意された事を受けて欧州債務問題に対する過度の懸念が後退。31日に本邦政府・日銀がドル買い・円売り介入に踏み切ると、ユーロ/円は111.56円まで反発した。ただ、31日のNY市場ではギリシャ首相が、欧州首脳会議で合意した同国向け追加支援の是非について国民投票が必要との見解を示しており、緊縮財政に対する国民の不満が渦巻く中、追加支援を拒絶する事になれば「秩序なきデフォルト」につながる可能性が高い。こうしたギリシャの政局に加え、欧州金融安定基金の拡充や銀行の資本増強策など、欧州首脳会議で合意した「包括戦略」の内容にも不透明感が残る事を考慮すると、ユーロがこのまま上値を伸ばす事は考えにくい。徐々に明らかになると見られる「包括戦略」の具体的な内容が債務危機の解決には不十分との見方が広がれば、ユーロ/円は再び100円を目指す可能性もあるだろう。その他、ユーロ圏の物価上昇率が3%前後で高止まりする中、11月から指揮を執るドラギ新総裁が3日の欧州中銀（ECB）理事会で、債務危機の側面支援策として利下げもしくは、12月の利下げを示唆するかどうかにも注目となる。利下げや利下げの示唆はユーロ売り材料となりやすい。（神田）

（予想レンジ:101.00～112.00円）

## 今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/2(水)	米FOMC政策金利発表	11/24(木)	11月独IFO景況指数
11/3(木)	欧州中銀金融政策発表	11/28(月)	11月独消費者物価指数・速報
11/4(金)	10月米雇用統計	11/30(水)	11月ユーロ圏消費者物価指数・速報
	G20首脳会議(3日～)		10月ユーロ圏失業率
11/9(水)	中国10月消費者物価指数		
11/10(木)	ECB月例報告		
11/15(火)	第3四半期ユーロ圏GDP・速報値		
	11月独ZEW景況感調査		
	10月米小売売上高		
11/16(水)	日銀金融政策決定会合		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/USD

## ユーロドル 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3344ドル	1.4246ドル	1.3144ドル	1.3846ドル



①	3日、ギリシャが2011年と12年の財政赤字削減目標を達成できないと発表した事を受けて、ユーロ圏財務相会合でギリシャ向け次回融資が先送りされた事を嫌気してユーロドルは約9カ月ぶりに1.32ドルを割り込んで下落。翌4日には1.3144ドルの安値を付けた。
②	6日、独8月製造業受注が前月比-1.4%と予想(±0.0%)を大きく下回った事を嫌気してユーロが下落。さらにその後、欧州中銀(ECB)が政策金利を1.50%に据え置く事を発表すると、景気支援のための利下げを期待していた欧州株が急速に上げ幅を縮めたため、ユーロドルは下落した。しかし、その後のトリシェECB総裁の会見でカバードボンドの購入再開や12カ月物や13カ月物資金供給オペの導入といった金融機関支援策を発表した事を好感してユーロドルは1.3450ドルまで反発した。
③	10日、9日に行われた独仏首脳会談で債務危機解決に向けた対策を10月末までに打ち出すとした事を受けてユーロが上昇。さらに一部報道で欧州連合(EU)、国際通貨基金(IMF)、ECBのトロイカ調査団によるギリシャの緊縮財政に関する協議が終了し、11日にも声明を発表すると伝わるとユーロ買いが加速し、ユーロドルは1.3697ドルまで上値を伸ばした。
④	17日、前週末のG20財務相・中銀総裁会議で、23日のEU首脳会議までに欧州債務危機の包括対策を打ち出すよう要請する声明を採択した事を受けて、債務問題の早期解決期待からユーロドルは1.3914ドルまで上昇した。しかしその後、ショイブレ独財務相が「次回のEU首脳会議では債務危機の最終的な解決策は示されないだろう」と発言したほか、メルケル独首相報道官が「月曜日に債務危機が解決するとの夢は実現しないだろう」と発言した事を受けてユーロが反落。さらに、これらの発言を嫌気してNYダウ平均株価が大幅に下落すると、ユーロドルは1.3724ドルまで下落した。
⑤	27日、東京時間午前中に終了したユーロ圏首脳会議(23日に追加して26日にも開催)で欧州債務危機の「包括戦略」が合意された事を好感してユーロは終日堅調に推移した。独DAX指数が5%超、NYダウ平均株価が3%近く上昇し、原油価格も4%超上昇するなど、株高・資源高が進んだ事もあってユーロドルは1.4246ドルまで上値を伸ばした。
⑥	31日、本邦政府・日銀がドル買い・円売り介入を実施すると、ドル/円が4円近く急騰。対ユーロでもドル買いが優勢となった。さらにその後、米金融大手MFグローバル・ホールディングスが、欧州周辺国債への投資による損失拡大を主因に連邦破産法適用を申請。ギリシャのパパンドレウ首相が同国向け2次支援の是非について国民投票が必要との見解を示した事なども売り材料となり、ユーロドルは1.3827ドルまで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/USD

## 今月のポイント

10月のユーロ/ドル相場は1.3144ドル～1.4246ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.4%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。ギリシャの早期デフォルト観測が強まり、ギリシャ債を保有する欧州の銀行に対する不安が世界的な金融危機に発展するとの懸念につながり、ユーロ/ドルは一時9カ月ぶり安値となる1.31ドル台まで下落した。しかし、9日の独仏首脳会談、14-15日のG20財務相・中銀総裁会合、21日のユーロ圏財務相会合、23日と26日のユーロ圏首脳会議などを経て、ユーロ圏債務問題の解決に向けた「包括戦力」が合意された事から過度の懸念が後退。11月2日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で追加緩和が発表されるとの思惑がドル売り材料となった事もあって、27日には1.4246ドルまで反発した。しかし、31日にはギリシャ首相が、欧州首脳会議で合意した同国向け追加支援の是非について国民投票が必要との見解を示しており、緊縮財政に不満が渦巻く中、同国民が追加支援を拒絶すれば「秩序なきデフォルト」につながる可能性が高まる。また、同じ31日には、米金融大手MFグローバル・ホールディングスが、欧州周辺国国債への投資による損失拡大を主因に連邦破産法の適用を申請しており、欧州債務問題の他国への飛び火が現実になりつつある。11月3日の欧州中銀(ECB)理事会で、利下げを発表する(利下げがなくても12月の利下げを示唆する)との見方が強い事もあって、ユーロの買い材料に乏しい展開が続きそうだ。ただ、米国でも11月1日-2日の連邦公開市場委員会(FOMC)で住宅ローン担保証券(MBS)の買い入れを再開するとの思惑がくすぶっている。思惑通り追加緩和が発表されれば、ドル安・ユーロ高が進む可能性もある。ユーロ/ドル相場にとっては11月の第1週が最大のヤマ場となりそうだ。(神田)

(予想レンジ:1.3350～1.4200ドル)

## 今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	10月米ISM製造業景況指数	11/16(水)	10月米消費者物価指数
11/2(水)	10月米ADP全国雇用者数		10月米鉱工業生産
	米FOMC政策金利発表	11/17(木)	10月米住宅着工件数
11/3(木)	欧州中銀金融政策発表		11月米フィラデルフィア連銀景況指数
	10月米ISM非製造業景況指数	11/22(火)	第3四半期米GDP・改定値
11/4(金)	10月米雇用統計	11/23(水)	米FOMC議事録
	G20首脳会議(3日～)	11/24(木)	11月独IFO景況指数
11/10(木)	ECB月例報告	11/28(月)	11月独消費者物価指数・速報
11/11(金)	11月米シガン大消費者信頼感指数	11/29(火)	11月米消費者信頼感指数
11/15(火)	第3四半期ユーロ圏GDP・速報値	11/30(水)	11月ユーロ圏消費者物価指数・速報
	11月独ZEW景況感調査		10月ユーロ圏失業率
	10月米生産者物価指数		11月米シカゴ購買部協会景気指数
	10月米小売売上高		米地区連銀経済報告(ページブック)

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/JPY

## ポンド/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	120.11円	127.26円	116.97円	125.72円



①	3日、アジア株の軟調さを受けてポンド/円は下落。英9月製造業PMIが市場予想を上回るとの噂を背景に反発し、同指標が51.1と実際に市場予想(48.5)を大きく上回るとポンド高が進む場面も見られたが、その後もユンケル・ユーログループ議長が「本日のユーロ圏財務相会合ではギリシャ向け次回融資について決定しないだろう」と述べ、ユーロ/円が下落すると、ポンド/ドルも連れて一段安となった。
②	6日、英金融政策委員会(MPC)は資産買い入れ枠を750億ポンド拡大し、2750億ポンドとした。これを受けて発表直後のポンド/円は急落し、116.97円の安値をつけた。ただ、トリシェ欧州中銀(ECB)総裁がカバードボンドの購入再開や域内金融機関への無制限資金供給オペを発表しユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れて値を戻した。
③	12日早朝に否決されたスロバキア議会での欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の拡充案について、与野党の合意次第では本日中の再採決を実施する可能性があるという一部報道が伝え、ユーロ/円が上昇するとポンド/円も連れ高した。なお、英9月雇用統計は失業率は市場予想通りの5.0%だった一方、失業保険申請件数推移は1.75万件増と市場予想(2.40万件増)よりは良好だったことも一時ポンド高に寄与した。
④	17日、ショイブレ独財務相が「次回のEU首脳会議では、債務危機の最終的な解決策は提示されないだろう」などと発言した事に続き、独政府報道官が「月曜日に債務危機が解決するとの夢は達成されないだろう」と発言した事を嫌気してユーロが下落するとポンドも連れ安した。
⑤	18日、17時30分に発表された英9月消費者物価指数が市場予想を大幅に上回ると瞬間的にポンドは上昇したが、以前からイングランド銀行(BOE)が「物価上昇は一時的」と金融引き締めを行わない意向を明らかにしていたことから、すぐに反落。さらに、英財務省が「2012年にインフレは急速に低下するだろう」などとの見解を示したこともあり、119.98円まで値を下げた。ただ、「独仏が欧州金融安定ファシリティ(EFSF)を2兆ユーロに拡大することで合意」と報じられユーロ/円が反発するとポンド/円も連れ高した。
⑥	19日、EFSF拡大観測を受けてアジア・欧州市場で株高が進むと、ポンド/円は上昇。MPC議事録で量的緩和が全会一致で決定されたことが明らかになるとポンド売りが強まったが、反応は一時的だった。
⑦	27日、ユーロ圏首脳会議で債務問題の包括対策が合意された事に加え、米第3四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+2.5%と堅調な伸びを示した事を受けて欧米株が軒並み大幅高となった。株高を背景にリスクを積極的に取る動きが強まり、ポンド/円は122.48円まで上昇した。
⑧	31日、政府・日銀による円売り介入が入ったことで、ドル/円が急騰すると、ポンド/円も連れて朝に付けた安値121.87円から大幅に上昇し、正午前に127.25円の高値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## GBP / JPY

## 今月のポイント

10月のポンド/円相場は116.97～127.26円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.6%の大幅上昇（ポンド高・円安）となった。10月の英経済指標は全般的に市場予想ほど悪い結果にならないものが目立ったが、月初にイングランド銀行（BOE）が資産買い入れ枠拡大を決定し、英経済の弱さに対する懸念が強い中、発表直後にポンド高に振れたとしても持続性に欠ける状態だった。もっとも、10月は欧州債務問題を軸に取引されるユーロ/円が比較的堅調だったことから、ポンド/円も連れてジリジリと上昇。31日にはドル/円の介入による急騰がポンド/円の上値を一段と押し上げた。

英国の経済の状況は弱く、経済指標は引き続き注目される。ただ、10月に追加緩和を行ったばかりでBOEが11月にも追加対策を打ち出してくるとの観測は浮上しにくく、英国の材料を受けたポンドの動きは持続性に欠ける状態が続くと考えられる。市場の関心が基本的に欧州の債務問題に集まっており、相場の主役がユーロであり続けている点を考慮すると、ポンド/円は引き続きユーロ/円に従う展開になりそうだ。ユーロ圏については、10月に一旦ギリシャが無秩序なデフォルト（債務不履行）状態に陥るとの不安は一旦後退したが、ここにきて再び拡大しつつある。すぐにこの不安が後退すればユーロ/円が上昇し続け、ポンド/円も堅調に推移すると考えられるが、この件についてネガティブな見方がより強まれば、再びユーロ/円が軟化し、ポンド/円も連れて上げ幅を縮小すると考えられる。欧州関連の報道が最も重要な鍵になってくるだろう。（ジェルベズ）

（予想レンジ：117.00～130.50円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

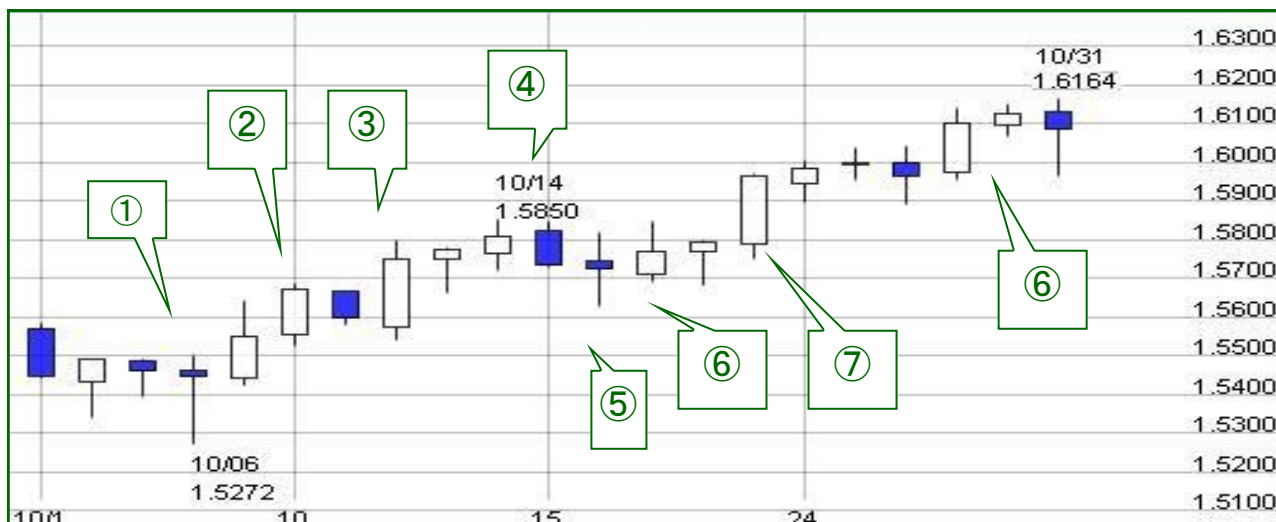
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	10月英PMI製造業	11/14(月)	第3四半期日GDP・一次速報
	第2四半期英GDP・改定値	11/15(火)	10月英消費者物価指数
	10月米ISM製造業景況指数	11/16(水)	日銀金融政策決定会合(15日～)
11/2(水)	10月英PMI建設業		10月英雇用統計
	10月米ADP全国雇用者数		英四半期インフレ報告
11/3(木)	10月英PMIサービス業	11/17(金)	10月英小売売上高
	10月米ISM非製造業景況指数		11月米フィラデルフィア連銀景況指数
11/4(金)	10月米雇用統計	11/23(水)	BOE議事録
	G20首脳会議(11/3～)		10月米耐久財受注
11/8(火)	9月英鉱工業生産	11/24(木)	第2四半期英GDP・確報値
11/9(水)	9月英商品貿易収支	11/25(金)	10月日消費者物価指数
11/10(木)	BOE政策金利発表	11/29(木)	11月米消費者信頼感指数
11/11(金)	10月英生産者物価指数	11/30(金)	11月米ADP全国雇用者数
	11月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		11月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/USD

## ポンド/ドル 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5571ドル	1.6164ドル	1.5272ドル	1.6085ドル



①	6日、英金融政策委員会(MPC)は資産買い入れ枠を750億ポンド拡大し、2750億ポンドとした。これを受けて発表直後のポンド/円は急落し、116.97円の安値をつけた。ただ、トリシェ欧州中銀(ECB)総裁がカバードボンドの購入再開や域内金融機関への無制限資金供給オペを発表しユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも連れて値を戻した。
②	9日に行われた独仏首脳会談で、ユーロ圏の債務危機解決に向けた新たな対策を10月末までに打ち出す方針を明らかにした事を受けてユーロ/ドルが上昇し、ポンド/ドルは連れ高。欧州連合(EU)・国際通貨基金(IMF)・欧州中央銀行(ECB)の3者合同(トロイカ)調査団によるギリシャ支援協議が終了し、11日にも声明を発表すると伝わるとこの流れに拍車が掛かり、1.5687ドルまで値を上げた。
③	12日、早朝に否決されたスロバキア議会での欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の拡充案について、与野党の合意次第では本日中の再採決を実施する可能性があると一部報道が伝え、ユーロ/ドルが上昇するとポンド/ドルも連れ高した。なお、英9月雇用統計は失業率は市場予想通りの5.0%だったが失業保険申請件数が1.75万件増と市場予想(2.40万件増)よりは良好だったことも一時ポンド高に寄与した。
④	17日、ショイブレ独財務相が「次回のEU首脳会議では、債務危機の最終的な解決策は提示されないだろう」などと発言した事に続き、独政府報道官が「月曜日に債務危機が解決するとの夢は達成されないだろう」と発言した事を嫌気してユーロが下落するとポンドも連れ安した。
⑤	18日、英9月消費者物価指数が市場予想を大幅に上回ると瞬間的にポンドは上昇したが、以前からイングランド銀行(BOE)が「物価上昇は一時的」と金融引き締めを行わない意向を明らかにしていたことからすぐに反落。さらに、英財務省が「2012年にインフレは急速に低下するだろう」などとの見解を示したこともあり、1.5630ドルまで値を下げた。ただ、「EFSFを2兆ユーロに拡大することで合意」と報じられユーロ/ドルが反発するとポンド/ドルも連れ高した。
⑥	19日、EFSF拡大観測を受けてアジア・欧州市場で株高が進むとポンド/ドルは上昇。MPC議事録で量的緩和が全会一致で決定されたことが明らかになるとポンド売りが強まったが、反応は一時的だった。
⑦	21日、独政府筋が「独仏間に深刻な意見の対立はない」との見解を示したのに続き、ショイブレ独財務相が「26日の首脳会議において独仏の間に意見の相違の兆しはない」と発言した事を好感して欧米株が大幅に上昇すると、ポンド/ドルは1.59ドル台後半まで値を伸ばした。
⑧	27日、ユーロ圏首脳会議で債務問題の包括対策が合意された事に加え、米第3四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+2.5%と堅調な伸びを示した事を受けて欧米株が大幅に上昇すると、ポンド/ドルも上昇。翌28日には原油高などもあり1.6152ドルの高値をつけた。

※ 巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP/USD

## 今月のポイント

10月のポンド/ドル相場は1.5272～1.6164ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.1%の上昇（ポンド高・ドル安）となった。10月は上旬にイングランド銀行（BOE）が資産買い入れ枠拡大を決定したことなどを背景に安値をつけたが、その後は欧州の債務不安後退や米国の追加金融緩和観測などを背景にユーロ/ドルが上昇したことに連れてポンド/ドルも堅調に推移した。

単純に英米の金融当局の様子を見ると、BOEは前回追加の金融緩和を行い、すぐに一段の緩和を行うようなムードではない一方、米連邦準備制度理事会（FRB）は追加緩和観測が根強い状態であり、11月のポンド/ドル市場は基本的に米国の経済指標や要人発言など、米金融政策に関する憶測を呼ぶような材料により反応しやすいのではないかとみる。ただ、それ以上にポンド/ドル相場の鍵となりそうなのはユーロ/ドル相場の方向感だろう。10月はギリシャが無秩序なデフォルト（債務不履行）に対する不安が緩和し、ユーロ/ドルが上昇したことに連れてポンド/ドルも上昇した。しかし、10月の月末から再びギリシャに対する不安が頭をもたげ始めており、11月にユーロ/ドルが下落基調に転じる可能性は否定できない。そうなった場合、ポンド/ドルは10月の上昇幅を消していくような展開になることもあり得る。

テクニカル面から見ると、ポンド/ドルは10月下旬に中長期的に相場の転換ポイントとして機能する傾向にある200日移動平均線で一旦頭を抑えられている格好になっている。9月安値（1.5327ドル）と10月安値（1.5272ドル）の2点をとったダブルボトムを形成し、上昇したポンド/ドルだったが、200日線の上値の重さを払拭できなければ再反落しそうだ。（ジェルベズ）

（予想レンジ：1.5350～1.6400ドル）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	10月英PMI製造業	11/15(火)	10月英消費者物価指数
	第2四半期英GDP・改定値	11/16(水)	10月英雇用統計
	10月米ISM製造業景況指数		英四半期インフレ報告
11/2(水)	10月英PMI建設業	11/17(金)	10月英小売売上高
	10月米ADP全国雇用者数		11月米フィラデルフィア連銀景況指数
11/3(木)	10月英PMIサービス業	11/22(火)	第3四半期米GDP・改定値
	10月米ISM非製造業景況指数	11/23(水)	BOE議事録
11/4(金)	10月米雇用統計		10月米耐久財受注
	G20首脳会議（11/3～）		米FOMC議事録
11/8(火)	9月英鉱工業生産	11/24(木)	第2四半期英GDP・確報値
11/9(水)	9月英商品貿易収支	11/29(木)	11月米消費者信頼感指数
11/10(木)	BOE政策金利発表	11/30(金)	11月米ADP全国雇用者数
11/11(金)	10月英生産者物価指数		11月米シカゴ購買部協会景気指数
	11月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		米地区連銀経済報告（ページブック）

巻頭の特記事項を必ずお読みください。